



学童保育の役割と指導員の仕事

—保護者の方もぜひ関心を持ち、ともに考えてみませんか



全国学童保育連絡協議会

指導員の仕事は、共働き・ひとり親家庭などの子どもたちの放課後（学校休業日は一日）の生活を守ることです。そして、このことをとおして働く親の子育てを上げまし、支えます。

ここでは、指導員の役割や仕事、大切にしたいことなどについて、もう少し詳しく整理してみましよう。

学童保育での生活の流れ

一日の生活内容や流れは、それぞれの学童保育のおかれている条件によって異なりますが、学校がある日を見ると、おおよそ次のようなものです。

放課後、学校を終えた子どもたちが学童保育に帰ってきます。「ただいま」「おかえり」。指導員は一人ひとりに気を配りながら迎えます。

そして子どもたちは、宿題をしたり、それぞれ気に入った遊びを始めます。やがて、みんながそろった頃、おやつの時間になります。おやつが終わると、ふたたびそれぞれの遊び（時には行事やさまざまな取り組みなども）を始めます。

帰りの時間になると、そうじや片づけをして、保護者のお迎えを待ちます。帰り道が同じ方向の子どもたちがまとまって、集団で帰るところもあります。

学童保育の生活の大部分は遊びですが、買い物やおやつ・食事作り、読書や読み聞かせ、日記や工作、行事への取り組みなど、さまざまな活動もします。

子どもの体調が悪いときは静養させ、場合によっては保護者に連絡します。塾やおけいこごとがあれば、途中で出かけられるように、あらか



じめ保護者と話しあっている学童保育もあります。

午前中に帰ってくる日や一日保育の日（土曜日や春・夏・冬休み等の学校休業日）は、学童保育で昼食（お弁当など）を食べます。

このように、学童保育は子どもたちの「生活の場」になっています。

指導員は、子どもたちの生活がスムーズに営まれ、一人ひとりが安心して楽しく生活できるように援助しています。

学童保育の生活と指導員の仕事

〈学童保育の子どもたち〉

学童保育で生活する子どもたちの多くは低学年で、まだまだ大人の援助が必要です。また、一人ひとりの年齢や家庭・生活環境は異なりますし、興味や関心、やりたいこと



もさまざまです。子どもたちは、学校でいろいろな出来事に出会い、さまざまな思いや感情を抱えて学童保育に帰ってきます。

〈学童保育での生活をつくる〉

指導員の仕事は、このような子どもたち一人ひとりが、安全で生き生きとした放課後をおくれるよう、それぞれの年齢にふさわしい援助（「養護」も含め）をしながら、子ども

もたちと一緒に生活をつくることで

学校から帰ってきた子どもたちが、学童保育でくつろいだり、安心してすごせるように、安全や衛生に気を配りながら生活環境を整えます。

そして、その日の子どもたちの状況や学校での様子、天候を見ながら、無理のないように、一日の生活の流れを組み立てます。

また、当面の予定、生活のルールなどがわかるようにしたり、遊びや宿題、おやつやお出かけ、帰宅の時間など、子どもが見通しをもって生活ができるように援助します。

自分のことをわかってくれる指導員や友達がいるという実感があってはじめて、子どもは安心して生活することができ、いろいろなことに挑戦していく力をもつことができます。放課後の生活ですから、解放感や



特集 学童保育指導員—役割と仕事を考える

自由さを大切に、それぞれの思いや願いにもとづいた生活になるようにすることが大切です。

また、子どもたちの知的関心や興味を大切にしたり取り組みや、大勢の子どもたちが一緒にすごしているという特性を生かした活動をつくる機会ももちましよう。どのような取り組みをするにしても、子どもの自主性を大切にし、やりきった充実感もてるような取り組みと援助を心がけたいものです。

〈子どもたちとの関係をつくる〉

子どもたちは、保護者が送り迎えしていた保育所の頃とはちがいが、自分の意思で学童保育に通わなければなりません。時には休みたくなったり、実際に休んでしまうこともあるでしょう。

毎日いやいや来るようでは保護者



は安心できませんし、それでは、「放課後の生活を守っている」ことにはなりません。子どもたちが学童保育を自分の放課後の生活の場として受け入れ、毎日安心して帰ってこられるよう、そして気持ちよくのびのびと生活できるようにするための努力が、指導員には求められます。

そのためには、指導員が一人ひとりの子どもをしっかりと受けとめること、大勢の子どもたち一人ひとり

と一緒に生活する仲間である友達とお互いにわかりあえるようにすること、さまざまなことがらをとおして意図的に子どもたちにかかわること、子どもたちがお互いの存在やかかわりをおして成長できるように働きかけるなどが大切です。

〈保護者との伝えあい〉

「安心して、子育てしながら働きたい」という保護者の願いに応えるためには、指導員が学童保育での子ども様子をていねいに保護者に伝えることが必要です。

また、指導員が子どものことをより深く理解するためには、家庭での生活の様子、保護者の願いや思い（心配も含めて）を知らせてもらうことが非常に大切です。

学童保育での生活の様子や、子ども一人ひとりの様子を保護者に伝え、



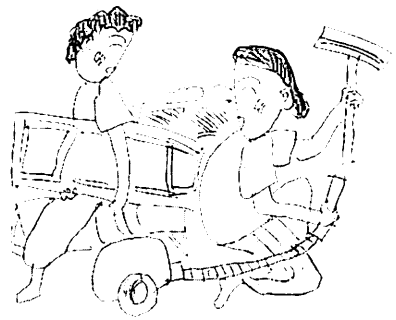
保護者からも家庭での様子を伝えてもらう。『伝えあい』は、学童保育での子どもの生活を豊かにする基礎になります。

できれば、保護者同士で子どもたちの様子を共有できる場ももちたいものです。

子どもと直接かかわること以外にも

学童保育の仕事を円滑にすすめるためには、指導員同士の情報の共有と協力が不可欠です。みんなで顔をあわせる時間を確保することがむずかしい状況もありますが、短時間でいいので、ぜひ打ちあわせの時間をとって行いましょう。

また、子どもへの理解を深め、学童保育の生活内容を豊かにするために、職場内で検討会を定期的にもつことも大切です。



指導員には、子どもたちと直接かかわること以外にも、実務を含めたさまざまな仕事があります。大まかには、次のようなものがあげられるでしょう。

・ 出席簿や保育日誌など、子どもに関する記録をつける

・ 学校や家庭等への必要に応じた連絡
・ 施設・設備・備品の管理と環境整備
・ 金銭管理（おやつ代、各種行事費など）と書類整理

・ 学習・研修
・ 必要な会議の準備・出席
・ 近隣・地域への対応、行政との連絡

これらの仕事を行うためにも、子どもたちが学校から帰ってくる前や子どもたちを家庭に帰した後の勤務時間が必要なのです。

支えあい、学びあって

指導員の仕事を続けていると、子どもとのかかわりや保護者とのかわりで悩んだりすることも多いと思います。そんな時は、同僚の指導員同士で、あるいは、地域の指導員仲間が集まって、悩みを出しあい、はげましあい、解決に向けた糸口を見つけられるようにしたいものです。また、指導員の役割や仕事について、保護者も関心をもち、考えてみ



特集 学童保育指導員—役割と仕事を考える

ることも必要でしょう。指導員がどんな状況に置かれているのか、どんな苦労や困難を抱えているのかに目を向けることも大切です。

指導員が仕事をしていくうえで、困難をもたらしている背景として、雇用のあり方や労働条件、研修や学習の機会の問題、学童保育についての行政の位置づけや保育内容への規制などがあることも少なくありません。

わが子の様子や保護者の願いや思いを具体的に指導員に伝えながら、一致できるところを広げ、指導員自身が充実感をもって仕事ができるよう、条件の整備を行っていきましよう。

より深く理解するために

指導員の仕事は、さまざまな機会

を通じて、日常不断に学ぶことが求められます。その際、『日本の学童ほいく』も大いに参考にさせていただければと思います。

今月号と来月号に掲載される「子どもを深く理解するために」と題した茂木俊彦先生の講義記録や、四月号から連載中の増山均先生の「講座」などからは、子どもや保護者とかかわるうえで指導員が大切にすべき視点や考え方を、たくさん学ぶことができますと思います。

また、「指導員のチームワーク」(二〇〇八年八月号)など、これまでも指導員の仕事についてくり返し特集でとりあげています(巻末のバックナンバー一覧をごらんください)。

* * *

ここまでみてきたように、私たち全国学童保育連絡協議会は、四十数年にわたる取り組みの蓄積のなかか

ら、次のように指導員の仕事をまとめてきました。

- ・子どもの健康管理・安全管理
- ・一人ひとりの子どもの生活の援助
- ・集団での安定した生活の維持
- ・遊びや活動、行事など生活全般を通しての成長への援助、働きかけ
- ・家庭との連携(子どもの状況把握、家庭との連絡・相談)
- ・学校との緊密な連携および地域の生活環境づくり

この特集のそれぞれの記事の中からも、これらの仕事の具体的な様子を知ることができるでしょう。

よりくわしくは、『テキスト 学童保育指導員の仕事』(全国学童保育連絡協議会発行)を活用し、学んでくださることを願います。

(文責・志村伸之)

